



現役世代に光当たる 上越市へ！

熊倉 隆将（市民クラブ）



問／若者の奨学金を一部補助してくれる制度が創設された。多くの人が知る機会を増やすべきと考えている。どんな取組を行なっているのか。

答／広報上越や市のホームページ、SNSを始め、市内の事業所や合同説明会、二十歳を祝う会などで周知を図っている。

問／補助額の上限は100万円であるが、将来を担う若者のために来年度以降、上限額を引き上げる考えはないか。

答／まだ制度が始まったばかりで今後のことは検討していない。しかし、今後の情勢などを見極めた上で再度検討していきたい。

子育て世代の家計負担軽減を！

問／就学支援制度適用世帯から、もう一步踏み込んで、学校給食費の負担軽減について所得制限を緩和する考えはないか。

答／現状では物価高騰相当額を市が負担している。また経済的理由で就学が困難な生徒に対しては学校教育法の就学支援制度により学校給食費の全額補助を行なっている。国や他自治体の動向を勘案し、必要に応じて費目の拡充や支給額の増額等について検討していきたいと考えている。



誰もが気兼ねなく移動 できる手段を目指して

宮崎 朋子（つなぐ）



問／予約型コミュニティバスが好評と聞くが、今後他地域への展開を想定する中で、その財源確保にはどう取り組んでいくか。

答／予約型コミュニティバスは、これまで安塚区、牧区で導入。令和6年4月からは蒲川原区及び大島区で実証実験を開始し、令和7年度に板倉区、令和8年度に名立区、令和9年度に吉川区・金谷区にて導入を計画している。区内への細かなバス停設置により自由な移動が可能。運行経費は、路線バスに比べ増加することが課題であるが、運行経費に対しては約7割が特別交付税で措置されることとなっており、今後も安定的な公共交通の維持に努めていく。

問／バス停まで歩いて行けないという市民の声も聞く。「戸口〜戸口」が望ましいが、相乗りタクシーや住民互助輸送、グリーンスローモビリティ（低速の小型電気自動車）の可能性はどうか。

答／相乗りタクシーと同等のサービスとして、当市では予約型コミュニティバスを運行してきた。運行事業者とも協議しながらであるが、将来的には運行範囲の拡大は可能と考えている。住民互助輸送は、今後も導入予定がある。グリーンスローモビリティは積雪時等の課題もあり、日常的な移動手段というよりも、観光分野での活用を検討していきたい。



学校部活動と地域クラブ の在り方

降旗 太地（久比岐野）



問／市は部活動に関する市民のニーズに応えるために、どのような制度設計を考えているか。

答／生徒の自主的、自発的な参加による活動を通してバランスの取れた健全な成長を目指し、子どもたちの利益を守ることを最優先として、それぞれの志向に応じた活動に取り組むことのできる環境を整えていく。

問／部活動の地域移行を段階的に進めるために、改革の全体像や学校と地域クラブ等との関係を分かりやすくスピード感を持って示す必要があるが、市長の考えはどうか。

答／市長局と教育委員会が一体となつて一層スピード感をもつて取り組まなければならない。今年度、「地域クラブ活動推進室」を新設。機能を十分に発揮させ、取り組みの推進を図る。

問／地域クラブ活動推進室の設置理由と目的について聞きたい。

答／「中学校における部活動改革」と「地域における子どもたちのスポーツ・文化活動の環境整備」の取り組みを一体的に推し進めるために新設。総合窓口として情報の集約や広報を行うとともに、取組全体の方針を定め、関係各課が行う業務を調整・管理する取り組みの中心的な役割を担う。

